

2018 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [赤穂市立高雄小学校] 担当教諭名 [渡邊 ひろみ] (3年1組 16名)

相手国・地域 [メキシコ]

海外学校名 [Comunidad Educativa Yaxunah] 担当教諭名 [Lucy Nava]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	イツアスモールワールド	35
	図工	壁画を描こう	6

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Friendship will save the world
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	争いは、相手のことを知らないから起きる。お互いが、自分たちのことを知ってほしいという願いを込めて伝えれば必ず相手に伝わる。国境を越えて互いの国の文化や生活の素晴らしさを知ること、理解し合え、友情が生まれる。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
調べ学習や交流を行う中で、相手の国の文化や生活を知るとともに、日本や赤穂の文化や生活の素晴らしさについても考える機会になった。相手に伝えるために絵や写真で伝えるという非言語のコミュニケーションについて考え、相手意識、目的意識を持って活動することができた。	3年生の児童にとって、調べたことや思いを英語で伝えることが難しく、教師も英語が堪能ではないために相手に伝える方法を見つけることが難しかった。交流の機会が思ったように持てず細かなやりとりが必要であったと感じるが、そこにも英語力の壁があり難しさを感じた。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
メキシコの子供たちが、味噌汁や折り紙など日本の文化について意外と知っていることに驚き、日本にも外国から伝わったものがあることと照らし合わせて、遠いと思っていた外国ともいろいろなところで繋がりにあることに気づいた。メッセージカードには、自分たちが伝えたい思いを絵や知っている英単語を使って伝えようという熱心な姿と温かい心を感じた。	フォーラムやスカイプでのやりとりを通して、教師自身も外国を身近に感じるようになった。特に、スカイプでは、事務局の方の協力を得て行き、言葉はうまく伝わらなくても身振り手振りなどを使ってなんとかやりとりは繋がっており、子供達も満足感を感じる事ができた。「国際交流」に対して、少しハードルが下がったように思う。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	相手校の情報を知る。 自己紹介動画を作成した。	自分の好きなものについて、英語で自己紹介をした。相手に伝わるように何度も練習をしていた。相手校の自己紹介の画像を興味深く見ていた。	総合4
共有 テーマ学習	10月 ～ 12月	テレビ会議で、それぞれの文化・生活等について紹介した。(12月) テレビ会議に向けて、伝えたいことに応じてグループ分けをし、調べ学習を進めた。	インターネットや本を使ったり、家の人に聞いたりして調べ学習を進めた。絵や写真を使って伝えようと工夫が見られた。テレビ会議では、12月なのに、半袖を着ていることに驚き、相手校の歌やダンスを楽しんで見ていた。自分たちの発表も満足していた。	総合20
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	12月	テレビ会議の交流を元に、表したいものについて話し合い、相手校と壁画のデザインを相談した。	日本や赤穂、高雄についてシンボルとなるものを描こうと意欲的な話し合いを行った。	総合2
創造 壁画制作	1月	グループごとに調べたものを中心に色塗りをした。 メッセージカードを作成して送った。	はみ出さないように、声を掛け合って根気よく行い、制作を楽しんでいた。知っている英単語や絵を描き、丁寧に仕上げた。	図工6 総合6
評価 振り返り 自己評価	3月	相手校から完成した壁画が届いた。	相手校の絵の色遣いに感動していた。メキシコを身近に感じ、行ってみたいと考えている児童が多かった。	総合3

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	相手に伝えるために、自分がきちんと知ろうと自発的に調べ学習を進めていた。
異文化を理解する力	3	交流から学んだことは多いが、事前学習として相手の国についての調べ学習が不十分であった。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	言葉では伝えにくい部分を補うために絵や写真を用いたり、調べたことを正しく理解するために家の人や教師に聞いたり、自発的に進めた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	3	相手に伝えたいという意欲は高まったが、伝えることに精一杯で、互いに理解し深めるまでには至っていない。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	児童は、「外国」に対する意識・知識が十分ではないので、教師側から調べる視点や考える視点を詳しく伝える必要があった。
主体的に考え行動する力	5	どの活動も、主体的に取り組むことができていた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	学級内で、協働する力は高まったと思うが、相手校とは、教師が流れを作っていく必要があり、伝え合うことで終わってしまったように思う。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	壁画やメッセージカードでは、自分たちの思いを伝えるためにどうすればよいか考え、自分たちで工夫して取り組んだ。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	学習のまとめとして自己評価を行い、自分の学びについて振り返ることができたが、活動ごとに評価の機会を取っていればより、まとめに繋がった。